

# 都市再生整備計画

かごしまえきしゅうへんちくだい き  
鹿児島駅周辺地区(第2期)

かごしまけん かごしまし  
鹿児島県 鹿児島市

平成30年2月7日

平成30年11月30日(第1回変更)

令和元年9月30日(第2回変更)

令和2年3月11日(第3回変更)

令和3年2月18日(第4回変更)

令和4年2月4日(第5回変更)

令和5年2月15日(第6回変更)

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	鹿児島県	市町村名	かごしまし 鹿児島市	地区名	かごしまえきしゆうへんちく 鹿児島駅周辺地区(第2期)	面積	22 ha
計画期間	平成 30 年度 ~ 令和 4 年度	交付期間	平成 30 年度 ~ 令和 4 年度				

**目標**  
 大目標：かごしまらしさにあふれた、鹿児島市の北の玄関口にふさわしいまちづくり  
 目標1：鹿児島市の北の玄関口として交通結節機能を強化し、利便性・安全性の向上を図る。  
 目標2：回遊性のある歩行者空間のネットワークを形成し、にぎわい・交流の創出を図る。

**目標設定の根拠**  
 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。  
 ・利便性の高いまちを維持するために中心市街地や副都心などに高次都市機能を集積するとともに、地域生活拠点や団地核、集落核を基本として、生活利便施設を集約し、一定の人口密度を維持しながら歩いて暮らせる生活圏の形成を図る。  
 ・人口の集約や行政財の効率的な運営のためにコンパクトかつ安全な市街地の形成に向けた土地利用の促進を図る。  
 ・中心市街地や副都心の持つ都市機能を誰もが享受することが可能となるために、利便性・効率性の高い持続可能な公共交通体系の構築を図り、拠点間がネットワーク化された市街地の形成を図る。

**まちづくりの経緯及び現況**  
 ・中心市街地の北に位置する鹿児島駅周辺地区は、明治34年、鹿児島〜単人間に鉄道が開業したことで、鹿児島駅が交通の要衝となり、官公庁など多くの都市機能が集積するなど、かつては人の往来が多く活気に満ちた地域であった。しかし、九州新幹線の開通をはじめ鹿児島中央駅が中心的な役割を担うようになったことや、官公庁の移転、市街地の南進などにより、現在では活力が低下してきている。  
 ・本地区では、連続立体交差事業と土地区画整理事業による面的な整備を検討してきたが、平成21年に、県から「厳しい財政状況やJR貨物の移転、交差道路の付替えなどの大きな課題があり、両事業の実現は現状では困難」との見解が示された。  
 ・そこで、都市再生整備計画(鹿児島市都心部地区)において、地域住民との協働のもと持続的なまちづくりを実現するための指針となる「鹿児島駅周辺まちづくりガイドライン」を作成し、より具体的な駅周辺整備に係る基本設計や駅周辺の低未利用地活用検討等を行い、「鹿児島駅周辺土地利用基本計画(H25.3)」「鹿児島駅周辺土地利用施設基本計画(H25.3)」を定めた。  
 ・さらに、平成26年度からは、都市再生整備計画(鹿児島駅周辺地区)において、「かごしまらしさにあふれた、鹿児島市の北の玄関口にふさわしいまちづくり」を目標に、イベント等に活用可能な広場の整備等を行うことで、本地区の新たな賑わいや魅力の創出に向けて取り組みを進めている。  
 ・このような取組を進める中で、平成22年度には、まちづくり団体が設立され、平成26から27年度には、地域住民と一体となってイベント広場の施設活用推進計画を作成する等、住民のまちづくりに対する関心が高まりつつある。また、平成28年8月には鹿児島駅隣接地において民間の開発計画が報道されるとともに、9月には30年の大河ドラマ『西郷どん』の放送決定、10月には鹿児島市上町ふれあい広場と上町の社公園からなる『かんまちあ』の供用開始により多くの史跡を有する鹿児島駅周辺地区においては観光交流の増加が見込まれる等、まちづくりへの機運が高まっている。  
 ・平成29年3月に策定したかごしまコンパクトなまちづくりプラン(立地適正化計画)では、鹿児島駅周辺地区を都市機能誘導区域に設定するとともに、居住や都市機能の誘導施策として、鹿児島駅周辺地区の交通結節機能強化や魅力ある都市拠点の形成を推進することとしている。

**課題**  
 ・本地区は、JR鹿児島本線・日豊本線により市街地が東西に分断され、地域コミュニティや土地利用の分断、歩行者ネットワークの遮断等の課題を有しており、特に、西側市街地からの駅へのアクセスについては、遮断時間が長い踏切の横断や歩道幅員が狭隘で離合が困難な歩道を通行するなど、歩行者の安全性及び駅へのアクセスに関する利便性が低い状況にある。  
 ・現在の鹿児島駅前広場は、バス乗降場が点在し乗り継ぎが不便であるとともに、安全な歩行者動線が確保されておらず、歩行者(自転車)は車両の通行が途切れた状況のみで横断する必要があるなど駅前広場の安全性において課題があるとともに、駅前広場利用者アンケートにおいて歩行環境、利便性等の満足度も非常に低い状況にある。  
 ・「鹿児島駅前広場設計」における駅前広場の施設規模算定においても、バス停車場、自家用車の乗降場等の交通結節機能が不足するほか、バス乗降場の不足から道路上で多くのバスの待機し交通混雑等が生じたり、乱雑に駐輪された自転車等により歩行者が安全・快適に歩くことが出来ないなどの問題も発生しており、交通結節拠点としての機能強化が求められている。  
 ・本地区は鹿児島市の北の玄関口として、地域の拠点(都市機能誘導区域)の役割を担う地区であり、高齢者や観光客をはじめ誰もが訪れやすく、交流や賑わいの拠点としての重要な役割をもっているが、現在の鹿児島駅は、北の玄関口としての賑わいや回遊性、景観等においても課題があるとともに、バリアフリー化が図られておらず、利用者の満足度が非常に低い状況にある。

**将来ビジョン(中長期)**  
 ・かごしま都市マスタープランでは、上町地区を『鹿児島駅、鹿児島本港を有し、かごしまらしさにあふれた、鹿児島市の北の玄関口』として位置づけ、『鹿児島本港、城山、磯・多賀山を活かす海に開かれ歴史にふれあうまちづくり』を目標とし、『地区の資源を活かした、かごしま発祥の地としてのまちのにぎわいの再生』を地区整備の基本方針とし、『基盤施設の再整備や高次都市機能の集積の促進によるにぎわいのある都市拠点の形成』、『交通の混雑の緩和と交通結節機能の強化による北の玄関口としての通いやすいまちの形成』、『かごしまの史と景を実感できる回遊性のある歩行者空間のネットワークの形成』による観光交流の促進などに取り組むこととしている。  
 ・第五次鹿児島市総合計画では、鹿児島駅周辺地区を含む上町地区の基本的方向として、交通結節機能の強化や魅力ある新たな都市拠点の形成、公共施設の機能向上、地域住民の多様な地域活動との連携を掲げている。  
 ・かごしまコンパクトなまちづくりプラン(立地適正化計画)では、『歩いて暮らせるまちづくり』をまちづくりの方向性とし、鹿児島駅周辺地区を含む中心市街地等に高次都市機能を誘導すること等により一定の人口密度を維持しながら歩いて暮らせる生活圏の形成を図るとともに、持続可能な公共交通体系の構築を図り拠点間がネットワーク化された市街地の形成を図ることとしている。  
 ・第2期鹿児島市中心市街地活性化基本計画では、『気軽にまち歩きを楽しめる回遊性のあるまちづくり』『人々が住まい、集い、活気のあるまちづくり』『多面的な魅力とにぎわいあふれるまちづくり』を基本的な方針とし、鹿児島駅周辺地区においては、本市の北の玄関口である鹿児島駅周辺地区にふさわしい都市空間の形成を図り、にぎわいの創出や歩行者の回遊性向上を目指している。  
 ・鹿児島市新交通バリアフリー基本構想では、『みんなが出かけたいまち かごしま』を基本理念とし、誰もが自立的に安心して安全に行動できるまちづくりを目指しており、JR鹿児島駅周辺については、重点整備地区に位置付けている。



<p><b>計画区域の整備方針</b></p> <p><b>整備方針1: 鹿児島市の北の玄関口として交通結節機能を強化し、利便性・安全性の向上を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道によって分断されている東側・西側を結ぶ自由通路や駅前広場の一体的な整備により、駅前広場の機能分担や連携を図り、交通結節点の機能向上を図る。</li> <li>・鹿児島駅前広場の整備に伴い必要となる駅舎の移築にあわせ、自由通路と駅舎の一体化を図る。</li> <li>・鹿児島駅前広場や上本町磯線(交通広場)などの整備にあたっては、鹿児島駅舎とともに、景観に配慮した整備を進め、新たな地区の顔として駅周辺の魅力を高める。</li> <li>・駅周辺の乱雑な駐輪を改善し、安全な歩行空間を確保するため、自転車等駐車を整備する。</li> <li>・その他、公衆トイレ、照明灯、歩行者用上屋の整備など、快適で利用しやすい鹿児島駅前広場の整備を進める。</li> </ul> <p><b>整備方針2: 回遊性のある歩行者空間のネットワークの形成により、にぎわい・交流の創出を図る。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島駅自由通路の整備や上本町磯線の歩道整備、情報板などの整備により、誰もが快適に歩くことが出来る歩行者ネットワークを形成し、地区内外の回遊性の向上を図る。</li> <li>・高齢者をはじめだれもが、安心して移動できる環境の整備を目指し、自由通路にエレベータを整備するなど、ユニバーサルデザインに配慮した駅周辺整備を進める。</li> </ul>	<p>方針に合致する主要な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■鹿児島駅自由通路(道路:基幹事業)</li> <li>■上本町磯線道路改良(道路:基幹事業)※交通広場を含む</li> <li>■鹿児島駅前広場(地域生活基盤施設:基幹事業)</li> <li>■自転車等駐車場(地域生活基盤施設:基幹事業)</li> <li>■情報板(地域生活基盤施設:基幹事業)</li> <li>■歩行者用上屋(高質空間形成施設:基幹事業)</li> <li>■照明灯(高質空間形成施設:基幹事業)</li> <li>■電線類地下埋設施設(高質空間形成施設:基幹事業)</li> <li>□事業効果分析(事業活用調査:提案事業)</li> </ul> <p>■上本町磯線道路改良(道路:基幹事業)</p> <p>■鹿児島駅自由通路(道路:基幹事業)</p> <p>■自転車等駐車場(地域生活基盤施設:基幹事業)</p> <p>■情報板(地域生活基盤施設:基幹事業)</p>
<p>その他</p>	

